



梅園（北野天満宮）



第46号

発行所
秋田地区保護司会
〒010-0976 秋田市八橋一丁目8-2
秋田市老人福祉センター 3階
秋田更生保護サポートセンター
TEL-FAX 018 (864) 5232

川巻頭言

活動指針と歩み

秋田地区協力雇用主協会 会長 尾形和雄



本会は、勤労意欲がありながら、就労に恵まれない保護観察対象者に対して、就業を援助協力し、その自立更生を促すことを目的としております。

現在、会員数は八十六社。私自身、令和元年六月八日の総会において、村山氏（故人）、大歯氏（故人）の後任として就任させていただきました。

現在、当会は具体的行動として、平成二十四年秋田地区協力雇用主協会卒燈会を設立し、令和二年・三年を除いて毎年「八月の竿燈まつり」に参加しております。令和三年度からは、九月の第一土曜日のユフォーレ大縁日まつりにも地元元保護司会の方々と一緒に参画し、社会を明るくする運動を周知しております。

今後の方針として、引き続き講演会・研修会・懇親会を実施し、会員の増強を目指すとともに、本会事業の周知を努めていきたいと思っております。

■現在までの歩み

- 平成十一年八月二十二日 秋田地区協力雇用主協会設立総会
- 平成十七年 村山会長長期入院、渡辺保護司の病死などにより活動停滞
- 平成二十年 十一月に定例総会を開催し、会長に大歯省三氏を選出し、役員を一新して再活動

平成二十四年 秋田地区協力雇用主協会卒燈会を設立。これは大歯会長の熱意と小畑悟氏の絶大御支援と多大な御寄付をいただいた事、又秋田地区更生保護女性の会、臨港地区更生保護女性の会、BBS会、秋田保護観察所の協力を得て、山車には「社会を明るくする運動」「犯罪や非行を防止し立ち直りを支援する地域の力」の文字をかかげ、提灯には法務省マークのひまわりと生きるマークをデザインして、百四十万人の観光客の前で広報活動をしている。

平成二十六年 秋田地区協力雇用主協会が秋田県知事感謝状を受賞

平成二十八年 法務省よりホゴちゃんをレンタルして八月三日～六日の四日間竿燈と共演。八月七日には五城目の朝市に二時間出演。午後には社会を明るくする運動のモデル事業の寸劇にも出演。

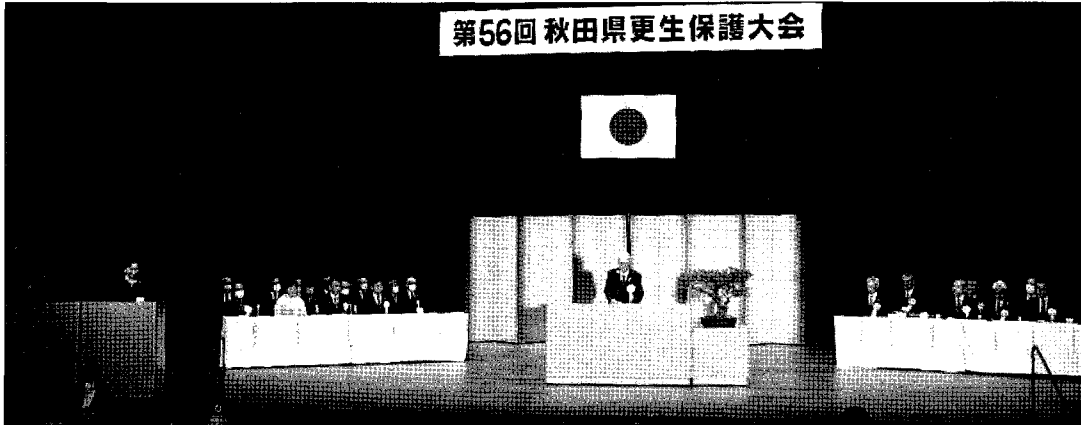
秋田地区協力雇用主協会卒燈が法務大臣感謝状を受賞

平成二十九年七月二十九日 大歯会長逝去、高橋良平副会長を中心に現路線の維持につとめる。

令和元年六月 定期総会にて 尾形和雄を会長に、金子雄司氏を事務局長に選出。年会費三千円を徴収することを議決。

第五十六回秋田県更生保護大会

秋田県保護司会連合会 常務理事 金山智紀



秋田県保護司会連合会 会長式辞

去る令和五年十一月二十日(月)、秋田市のあきた芸術劇場ミルハス中ホールにおいて、東北地方更生保護委員会委員長ほか多数のご来賓、役員等のご臨席のもと、秋田県内の更生保護関係者約七百人の参加を得て、第五十六回秋田県更生保護大会が厳粛かつ盛大に開催されました。

詳しくは、令和六年一月一日発行の第七十九号「秋田県更生保護」に掲載されておりましてご一読いただければ幸いです。

改めまして、この度法務大臣表彰を始め各表彰を受賞された皆様には心からお祝いを申し上げます。

今後とも益々ご健勝にて斯界発展と後進者育成のため、ご尽力ご活躍賜りますようお願い申し上げます。

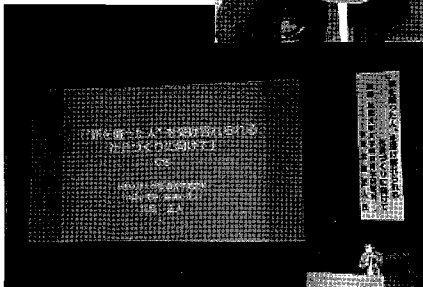
さて、あきた芸術劇場ミルハスでの開催は、昨年の東北大会に続いて二回目、中ホールでの開催は初めてとなりました。

受付の場所、記念品を渡す方法、ご来賓の控室迄の誘導など数多くの反省点があったように思えます。

令和六年度も十一月八日同じ会場で開催されますので、反省点を踏まえてより良い大会になるよう努めてまいります。



受付風景



講演

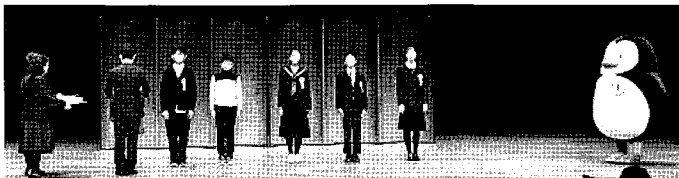
ただ、今後の問題点は、秋田県内の大きな催事がミルハスに集中しており、抽選が外れると会場が抑えられない可能性もあるとのことでした。

最後に、スタッフとしてお手伝いいただいた秋田地区保護司会、秋田地区更生保護女性会の皆様にご心から厚く御礼申し上げます。

殊に当日同時刻に大ホールで天童よしみさんのコンサートがあり、車輛の誘導係の方には、遅くまでご難儀をお掛けいたしました。

有難うございました。

なお、大会の様子はフェイスブックにアルバムとして写真を、ホームページの機関紙「秋田県更生保護」に掲載いたします。



作文コンテスト表彰・記念品授与



法務大臣表彰・感謝状・記念品授与

フェイスブック
「秋田県保護司会連合会」

<https://www.facebook.com/akitakenhogoshikai/>



Facebook
QRコード

ホームページ
「秋田県の更生保護」

<https://akita-kouseihogo.com>



Homepage
QRコード

七十九号」にも記事を詳しく掲載しておりますのでご覧ください。

荣誉をたたえる

法務大臣表彰を受賞して

東支部 鈴木重一



この度法務大臣表彰の栄に浴することができました。誠にありがとうございました。観察官、保護司の皆様の支援の賜物と感謝申し上げます。

平成十八年七月、定年退職して秋田県民になり、先輩に誘われ、保護司になりました。当時、刑務所の収容人員増で民力を得て社会復帰促進センター(喜連川、美祿など)が設置されました。そして裁判員裁判、犯罪被害者支援、出所者の就労支援などが始まりました。十九年十月、スタートした「被害者担当保護司」の指名を受け、被害者担当の観察官のもと観察所で業務するところとなりました。任期延長して、被害者担当の方は間もなく終了、保護司もあと少しです。よろしくお願ひします。

「ありがとう」

中央支部 吉田妙子



令和五年十一月、第五十六回秋田県更生保護大会で法務大臣表彰を受ける栄に浴しました。思いがけないことで恐縮しております。

法務大臣表彰

受賞者五名のメッセージ

ます。

私は予備知識もなく保護司になってしまった一主婦です。別世界の人と思われた対象者たちは特別な人ではなく、ここで生活をしていく人でした。保護観察は自分自身の人間力が問われる場でした。来訪に合わせてコーヒを淹れ、話を聞きます。一緒に泣いたり笑ったり。本人が何をしたいか、どうなりたいか、対象者の希望を捜して二十年。背中を押したり励ましたり。本人自身の気づきが被害者や家族のことに思い至り、更生へとつながると思っています。対象者からの「保護観察になって良かった。」の言葉が嬉しく、励みになりました。保護観察で私も育ちました。観察官を始め多くの人に助けていただきました。対象者や関わってくださった人たちは、保護司にならなければ出会えなかったご縁です。本当にありがとうございます。の一言に尽きます。

法務大臣表彰を受賞して

臨港支部 小坂智美



この度、秋田県更生保護大会において法務大臣表彰を賜りましたこと、恐縮至極と感謝の念が入り乱れ、カチコチで起立しております。

更に、支部でお祝いの会があり、これまでお世話になりました歴代の会長さん

はじめ、役員の皆様、観察官、関係各位、保護司の皆様の温かいお言葉、ご指導、お心遣いに感謝いたしました。

振り返れば長い年月、こうして続けてこれましたのは、いつ会っても優しく、かつ面白いお話を聞かせてくださる保護司会の皆様と家族の協力の陰様でございます。今後とも担当の苦勞を感じさせない、明るく知性溢れる方々をリスペクトしながら、マイペースで活動していけたらなあと思えました。たくさんの出会い、思いやり、励まし、勇気、皆様に心より感謝申し上げます。

義父の教え

臨港支部 辻 麻矢



この度は法務大臣表彰という、大変光栄な表彰を頂き身の引き締まる思いでおります。

私事で僭越ながら義父の体験談が保護司としても参考になるのではと思います。ここにその話の一つを記させて頂きます。

義父は三年前他界しましたが、昼は寺の住職、夜は高校の二部の教師をしておりました。生徒は年齢も仕事も様々で、ある時、いつものように高校に出勤すると、一階の校舎の窓という窓のガラスがサツシごと壊れ、教室の中は足の踏み場も無い程です。先生生徒達は二階に避難。義父も急ぎ二階に上がり先生達に状況を聞きました。理由は不明、とにかく一人の生徒が窓をたたき割っているとの事、先ず俺が様子を見てくる。『今行けば殺さ

れる。行くな』先生達の静止を振り切り一階に降りて行くど放心状態の生徒を見つけて、静かに「どうした」と話しかけると、生徒は興奮しながらも話し始めました。「仕事終わって、疲れて疲れて、腹も減って朝から何も食べていなかったの、給食室に行って、『何か食べさせて、少しでもいいから』とお願ひしたら、『無い』『今頃、時間外!』と断られた」と。このぶっさら棒で冷たい対応にこの生徒は切れてしまったのです。

義父は。「お前、もうどうなってもいいと思っこんな事したと思うが、この学校は昼間の生徒もいる。このままにはしておけない。お前の責任は一切問わない。俺が責任をとる。だから二人で此処かたづけよう。昼間の生徒が登校する迄に全部。」二人はかたづけ始めます。すると一人、二人とかたづけ仲間が増えてきます。「俺ガラス屋、ガラス持つて来る」「俺サツシ屋、サツシ持つて来る」こうしてクラスメートの皆が手伝ってくれて昼間の生徒の登校時間迄にかたづけは終了しました。

その後、この責任は先生も生徒も誰からも問われず、彼は勉学にも勤しみ無事卒業する事ができたのです。

もしこの時、義父が頭ごなしに叱っていたらどうなっていたでしょう。もしこの時、私だったらどう対処していたでしょう。

義父はいつも未来を見つめ、その人を、その子を、長い人生、生きていけるように活かす道を探っていたと思います。

法務大臣表彰を受賞して

臨港支部 淡路孝司



この度、ミルハスに於いて行われた令和五年第五十六回秋田県更生保護大会で法務大臣表彰を受賞しました。

私にとって思い掛けずの受賞であり、これもひとえに秋田保護観察所、各支部の御支援、御指導の賜物と深く感謝しております。

平成十五年十二月一日に保護司の拝命

永年の貢献に感謝

退任のメッセージ

保護司を回顧して

東支部 佐藤善清



平成三年に保護司拝命しましたが、当初はしがない教職を生業とした二足のわらじ

で、右も左もわからず不安と迷いでもも狼狽した事が、今では楽しい思い出となって蘇ってきています。

を受け満二十年を経過しました。

担当した事案は多くありませんが各事案とも相手の立場を思いながらその時、その時を歩いて来たと思います。気掛かりはJ.R出身の保護司さんがほとんどいないことです。今後ともあきらめずアプローチしていきます。更生保護活動に派手さはありませんが地道に黙々と活動してくれている保護司さんの活動があればこそ、再犯防止を含め社会に貢献していると考えます。今後とも皆様の御指導を受けながら、各種活動に頑張っていきます。

でも、見ていなくても、いつも同じくしなければいけない。」とか「走る前に先がわかる人と、走りながらわかる人、走った後でわかる人がいるから常に何事にも洞察力をもつ事を怠ってはいけません。」と、説諭した事が今では懐かしい思い出となっています。

また、東北一円の一泊二日の研修旅行は、風光明媚な所で山海の珍味を楽しむばかりでなく、保護司同志寝食を共にして、ふだん気付かない意外な人間性が見え親睦を深める事が出来たと思っております。

私が高校で教鞭をとっていた時、数人の英語教師と共に国際教養大学に行つて聴講を受ける機会がありました。その時、アメリカ人の女性の教授が英会話を勉強すれば認知症になりにくいと英語で言いました。それから毎日のようにラジオなどで一日一時間以上英語を聴き、日本

語も一時間以上読むように努めています。が、なにせロートルなので思うような進歩もなく、とても困惑しています。

皆様は、まだ若く前途有望ですから益々活躍出来ると思いますので頑張ってください。期待しています。

保護司としての活動に感謝

中央支部 堀井明美



保護司としての十四年間は、社会を明るくする運動と共にサポートセンターの任務をさせて頂いたことは、何にも代えがたい経験となりました。

初めての対象者との面談の機会を頂いた時の戸惑いと、不安な気持ちは今もはっきりと覚えております。

罪の重さを抱え更に、「経済的不安」「病氣・障害」「家族を含めた人間関係」etc...の問題を抱え、前に進む術を見失っている方に対して、まずは辛気持ちは受け入れる事からのスタートでした。

保護司に与えられた責務について、閃々と考える日々もありました。

しかし、先輩保護司の方々の体験談や温かい励ましには、たくさんの勇気を頂いて参りました。

解決策を求めて相談された方を、必要な社会資源に繋ぐ事の大切さと、どんなに悩んでも、自分の辛さを分かってくれる人の一言一言が、勇気と決意に繋がるものである事を、実感しております。

第五十六回秋田県更生保護大会で 表彰された保護司(家族功労者)の方々 (敬称略)

〈法務大臣表彰〉

鈴木 重一(東) 吉田 妙子(中)
小坂 智美(臨) 辻 麻矢(臨)
淡路 孝司(臨)

〈更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰〉

永澤 淑彦(東) 渡邊 栄利子(東)
池田 誠(臨) 高野 仁(臨)
佐々木 政幸(臨)

〈更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰(家族功労者)〉

渡邊 玉江(臨)

〈東北地方更生保護委員会委員長表彰〉

神原 真紀子(東) 熊谷 礼子(東)
石澤 盛一(東) 見上万里子(東)
河内 信雄(中) 石川ひとみ(中)
佐藤 輝代(中) 渡辺 正宏(中)
森 洋(臨) 三浦 研二(臨)
竹中 洋平(臨)

〈東北地方保護司連盟会長表彰〉

石塚 稔(東) 川口 雅丈(中)
桑村 忠良(中) 齋藤 百合子(中)
辻 邦弘(中) 船山 齊(臨)

〈秋田県知事感謝状〉

佐々木 曜子(東) 佐藤 武義(東)
渡辺 義昭(東) 杉山 吉則(東)
伊藤 妙子(中) 長谷山 節子(臨)
菊地 誠(中)

〈秋田保護観察所表彰〉

平川 英勝(東) 伊藤 巧一(東)
金子 美智子(中) 武内 伸文(中)
金子 雄司(中) 栗橋 修一(中)
中嶋 清実(臨) 柳原 弘之(臨)
萬谷 憲一(臨) 碓谷 一峰(臨)
宇佐見 康人(臨)

〈秋田県保護司会連合会長表彰〉

佐藤 郁子(中) 山本 隆弘(中)
関口 創子(中) 大歯 淳子(中)
佐藤 金幹(中) 神田 清武(中)
稲岡 弘輝(中) 渡邊 幸智(中)
浅野 紀子(中) 長谷川 浩司(中)
雑賀 友子(中) 竹屋 淑子(臨)

〈秋田県保護司会連合会長感謝状(家族功労者)〉

杉山 秀樹(東) 野呂 光明(中)
長谷山 則夫(臨)

昨今、立ち直りに多くの困難を抱える人が、その再犯を防止するためには、社会復帰後、地域社会で孤立させない「息の長い」支援等を、国、地方公共団体、民間団体等が緊密に連携協力して実施する必要があることを「再犯防止推進法」に明記されております。

どのような問題に対しても真正面から取り組む姿勢は、先輩や同僚保護司の皆様から教えられた事であり、この紙面をお借りして感謝を申し上げますと共に、市民の立場から保護司の皆様の応援者として社会活動をしてまいります。

おかげさまで

臨港支部 渡邊 富美



昭和六十一年に保護司を拝命して三十七年間皆んなのおかげさまで支えがあったからこそ、続けていくことができました。感謝のきもちでいっぱいです。

振り返ってみると、たくさんの方との関わりの中で、紆余曲折色々な経験もしました。その時々先輩保護司さんや観察官から助言をいただくとともに、いつも優しく心温まる言葉をかけてもらい、本当にありがたく、なんとか乗りこえることができました。

保護司をさせてもらったおかげで、地域・職業の異なる多くの人達(対象者その家族も含む)との出会い、巡り会いによって、親しく交流できたことは何より私の宝物です。今でもお手紙の交換等

続いており、心が和んでいます。以前、信濃の善光寺にお参りし、宿坊に泊まった折、更生保護に心をよせてくださった谷村新司さん「人は変われる。一緒なら」のうちわががあり、そこのご住職さんが長野の保護司会の役員でした。初対面ながら、同じ目的をもってボランティアをやっているご縁で研修会の内容、社明運動の取り組み等お互い話はずみ、又心豊かに生きるヒントも教えていただき、私にとっては有意義な時間でした。色々な場面で、つながりの輪も広がりが重なる体験と数多くの思い出ができました。

長い間お世話になり、本当にありがとうございます。お礼申し上げます。

よろしくお祈りします

新任のメッセージ

東支部 柴田 真紀



この度、ご縁がありまして、保護司として貴重な経験に携わらせていただくことになりました。

「保護司」という言葉は知っていても実際どのような活動なのか詳しく分からないまま先日辞令交付を受けたのも事実です。

しかし、ちょうど人生の節目として微力ながら何か社会貢献ができないものか、日々生活する上で自分自身挑戦して

みたい気持ち勝ち、お引き受けした次第です。

本来であれば保護司としての仕事は少なければ少ないほど平和な社会だと思っておりますが、事件を起こしてしまった人の立ち直りを支援する立場として、親身になって寄り添う姿勢を大切に、第二の人生を踏み出す勇気を与えられるよう努めて参りたいと思います。

中央支部 廣田 睦子



この度、保護司として活動させて頂くことになりました。

「無理解だなあ」との思いは変わりませんが、ただ、主人公が昔の対象者から「弱いからいいんだ。佳代ちゃんの弱さは武器だから。」とも言われていました。弱さなら、私もたくさんある...と佳代との共通点を見いだし「別世界」を生きてみよう、と思ひ直しています。

新任研修では知らないことの多さに今までの人生を省みました。せめて推薦してくださいだった先輩保護司さんが後悔しないよう、少しでも何方かのお役に立てるよう学んでいきたいです。観察所の皆様、先輩保護司の皆様からのご指導ご鞭撻の程、どうか宜しくお願い申し上げます。

臨港支部 小玉 はるみ



このたび保護司の委嘱を承りました小玉と申します。日頃からボランティア活動に関心

があり、地域等のボランティアに参加してまいりました。先日、保護司のお誘いを受け、種別は違うもののこれまでの活動の延長のつもりでお引き受けすることを決意しました。安心・安全な地域をつくるために地域で支える更生保護が重要とのことで、私にどれだけのことが出来るかわかりませんがお力になればと思っております。

先日、新任研修を気がひきしまるおもいで受講してまいりました。誠実さと謙虚さがあれば大丈夫との言葉をいただいた、肩の力を抜いて微力を尽くしてまいりたいと思っております。ご指導宜しくお願いいたします。

【保護司の異動】

【保護司退任】

令和五年十二月三十一日付

- 東支部 佐藤 善清
- 中央支部 堀井 明美
- 臨港支部 渡邊 富美
- 臨港支部 渡邊 良子

【新任保護司】

令和六年一月一日付

- 東支部 柴田 真紀
- 中央支部 廣田 睦子
- 臨港支部 宇佐美 平
- 臨港支部 小玉 はるみ

第七十三回「社会を明るくする運動」 秋田地区保護司会 作文コンテスト

【小学生：最優秀賞】 優しい言葉があふれる社会に

秋田市立上北手小学校 六年 遠藤 大和

ぼくは考える明るい社会とは、優しい言葉があふれ、みんなが笑顔で生活できる社会です。一人一人が自分のことだけでなく相手の立場になって考えて言葉をかけたり行動をしたりすることで、思いやりがあふれる社会になり、暗い気持ちで生活する人が減ると思います。しかし、学校でのトラブルやSNSでの仲間外し・書き込みが原因で、学校に行くことができない人が増えてきていることをニュースで知りました。

ぼくは今、仲の良い友達がいる、毎日楽しく学校に通っています。でも以前、心が暗くなる出来事がありました。五年生のときに、一人の級友がぼくのかみ型を笑いながら楽しそうにからかってきました。ぼくは自分をばかにされていると感じましたが、強く言い返すことはできず、「ひどいなあ。やめてよ。」と軽く受け流しました。内心はとてもいやな気持ちでしたが、今だけのことでとがまんしました。

時間がたてば終わると思っていましたが、数日たつてもそのからかいは続きました。それどころか、ぼくをからかう人はどんどん増えていきました。からかう友達は楽しそうにだれど、ぼくは悲しくて暗い気持ちになりました。普段は学校で楽しく過ごしていたし、友達との関係やクラスの雰囲気悪くしたくはなかつたので、暗い気持ちはかくしながら、自分ががまんすればいい

いんだと半分あきらめていました。しかし、ある日の授業中、またからかわれることがありました。すると気付いてくれた先生が、「自分たちは楽しくても、相手がいやだ、やめてほしい」と思っていたらそれはいいですね。」と言ってくれました。ぼくはうれしい気持ちになりました。それは、これからのからかいが終わると思ったからです。

しかし、期待に反して、ぼくへのからかいは他のクラスにも広がりました。着替えなどで他のクラスの友達といっしょになると、かみ型をからかい、ぼくを笑う声が聞こえてきます。ぼくの心は、重く暗くしずんでいました。もうがまんできないと思います。両親に相談してみると、しっかりと話を聞いてくれられました。そして、先生に話してみることになりました。次の日、ぼくは先生に今までの出来事を打ちあけました。すると、相談しているうちに、ぼくの心は軽くなっていきました。

先生はクラス全体にもう一度ぼくのからかいについて話をしてくれ、級友もぼくが苦しかったことや傷つき追いつめられていたことを分かってくれました。そして、ぼくに謝りにきてくれました。暗くしずんでいたぼくの心が、ようやく明るく軽くなりました。ぼくが経験したようなことが原因で学校に行けなくなってしまう人が増えているのは、大変なことだと思います。

た。興味があって調べてみると、学校に原因がある不登校は、友人関係のトラブルが大きな割合を占めていました。そのことを知ったとき、ぼくは以前見たニュースを思い出しました。それは、はんか街でたむろしている集団のニュースです。たむろしていると、色々な犯罪にまきこまれてしまう可能性があります。たむろしていると、色々な犯罪にまきこまれてしまう可能性があります。

た。興味があって調べてみると、学校に原因がある不登校は、友人関係のトラブルが大きな割合を占めていました。そのことを知ったとき、ぼくは以前見たニュースを思い出しました。それは、はんか街でたむろしている集団のニュースです。たむろしていると、色々な犯罪にまきこまれてしまう可能性があります。たむろしていると、色々な犯罪にまきこまれてしまう可能性があります。

た。興味があって調べてみると、学校に原因がある不登校は、友人関係のトラブルが大きな割合を占めていました。そのことを知ったとき、ぼくは以前見たニュースを思い出しました。それは、はんか街でたむろしている集団のニュースです。たむろしていると、色々な犯罪にまきこまれてしまう可能性があります。たむろしていると、色々な犯罪にまきこまれてしまう可能性があります。

第七十三回「社会を明るくする運動」 秋田地区保護司会作文コンテスト応募作品

◎小学生の部

「優しい言葉があふれる社会に」
上北手小学校 六年 遠藤 大和

「思いやりのリレー」
広面小学校 六年 金山 優女

「大雨が教えてくれたこと」
広面小学校 六年 関根こはる

「私の心のスイッチ」
大住小学校 六年 小笠原 縁

「合いの心」
大住小学校 六年 本田 莉桜

「一人じゃない、みんなで助け合う」
浜田小学校 六年 三浦 朋華

「隠れた幸せ」
浜田小学校 六年 相原 芽依

「社会を明るくするために」
明德小学校 六年 佐藤 太陽

「平和な社会にするために」
明德小学校 六年 磯崎 妃希

「今、自分にできることは」
旭南小学校 五年 藤嶋 凜乃

「もつと問いかけて、もつと対話を」
旭南小学校 六年 武田真里奈

「言葉と思いやりの大切さ」
豊岩小学校 六年 近藤 奏

「心を支えるために」
豊岩小学校 五年 吉田 莉爽

「あいさつでつくる安全な地域社会」
上北手小学校 六年 田村海空琉

「あいさつから始める安全な地域づくり」
上北手小学校 六年 平塚 葵音

「いじめと環境のつながり」
御所野小学校 六年 菅原 快斗

◎中学生の部

「心の居場所を見つけて」
雄和中学校 二年 今井 心咲

《最優秀賞》

「一人一人が大切だから」
秋田大学教育文化学部 二年 島山 幸輝

附属中学校 二年 島山 幸輝

【中学生：最優秀賞】 心の居場所を見つけて

秋田市立雄和中学校 二年 今井 心 咲

「もどらない。もどさない。」

私が社会を明るくする運動について知ったのは、この言葉がきっかけだった。小学校低学年のときに学校で配られた、社会を明るくする運動のポケットティッシュ。それに、その言葉があった。その言葉は、私の心にとっても響いた。「もどらない」は、犯罪や非行をしてしまった人自身が、もう二度と犯罪や非行を繰り返さないようにするということだ。それでは、「もどさない」とは？

そのとき私は初めて、犯罪者の更生には、本人の意志や努力だけでなく私たちの行動も必要なのだと気付いた。それでは、犯罪者をまた犯罪の道に戻さないために、実際どうすればよいのか。私は、そのための一つの鍵となっているのは、「居場所をつくる」ことではないかと考える。自分を守ってくれる、そこにいると安心できる、そんな心の居場所。私にはそんな居場所がある。私はその居場所を、ある体験を通して身をもって実感した。

それは、私が所属しているソフトテニス部で、練習試合をしたとき。私はその日中々調子が出せず、試合の結果は散々だった。今まで、ここまで上手くいかなかったことは無かったため、私はひどく落ちこんだ。上手くできない自分への恥ずかしさと悔しさで、心がいつぱいになる。自分は下手でみつともない。心の底からこう感じた。

そんなとき、一人の先輩が、私に声をかけに来てくれた。私はその先輩に、上手にプレーができなかったことを話した。その先輩は、私の背中にそっと手を当てて、私の話をゆっくりと聞いてくれた。しだいに、他の先輩も私のまわりに集まってきて、みんなで私を励ましてくれた。その中でも、ある一人の先輩が、

「心映ちゃんは、テニス上手だと思うよ。それに、今日失敗しちゃったところは、これから練習してできるようにになれば、大丈夫だよ。」

と言ってくれたとき、心がふっと軽くなった気がした。そして、失っていた自分への自信を取り戻し、「これからの練習、一生懸命頑張ろう」と、負の感情から気持ちを切り替えることができたのだ。

あのとき、「私は一人じゃない」と思った。私には、辛いことがあっても、助けてくれる人がまわりにいるんだ。私には居場所があるのだ。そう感じたあの瞬間を、私はずっと忘れないと思う。

私には、家に帰ると「おかえり」と言ってくれて私を迎えてくれる家族や、毎朝学校であいさつを交わす友達、会うと笑顔で話しかけてくれる地域の人々、悩んだときに相談にのってくれる先輩方や先生方がいる。みんなに支えられていくのだ。だからこそ、私は、前を向いて、私らしく生きていきたいのだと思う。

犯罪をしてしまった人には、そんな温かい居場所が無かったのかも知れない。辛いとき、苦しいとき、誰も頼れなくて、相談できなくて……。心の中が負の感情で満たされてゆくけれど、それをどこかに吐き出すこともできず、自分の中で限界がきて、犯罪に手を出してしまう。これは、とても悲しいことだ。

だからこそ、再犯を防ぐためには、

温かい居場所をつくるのが大切だと思おう。「もう、自分は一人じゃない」と思えるような、環境や支援が必要だ。「もう戻さない」という強い決意と、「もう戻さない」という温かい支援。この両方が合わることが、犯罪者の更生につながるのではないかな。

「怖い。信用できない。極力関わりたいくない。」私は今まで、過去に犯罪を起こした人をそう思っていた。その人が二度と犯罪を起こさないという確証が無いからだ。もし、再び罪を犯したら、今度は私や私のまわりの人に危害が及ぶかもしれない。そう考えると、その人に、自分から近付きたいとは思えなかった。

そんな私の考え方を変えたのは、更生保護を支えている様々な立場の人々の、インタビュー記事だった。インタビューに答えたどの人も元受刑者らを怖がる様子は全く無く、一人一人を、自分の家族のように大切にしていた。私は、それに心を打たれた。みんなが、過去に罪を犯した人を怖がり、距離をとってしまうと、その人に温かい居場所を指す人々を受け入れ、支え、応援することなのだ。

明るい社会をつくるために、私ができることは何か。それは、私が、まわりの人の温かい居場所をつくることだと思おう。まわりの人が、いつも私にしてくれているように、毎朝あいさつをして、一緒に話して、暗い表情をしていたら声をかけてみる。困っていたら相談にのる。そうすることで、誰かが悲しみや苦しみを抱えていても、それを和らげることができると思う。みんなに温かい居場所ができることを、私は心から願っている。

「言葉の大切さを使い方」
河辺中学校 二年 佐々木未来

【佳作】
「みんなで作る明るい社会」
将軍野中学校 三年 香澤 咲季
「笑顔の裏に気づける人」
将軍野中学校 二年 船木 陽斗
「更生へ繋ぐ『あいさつ』」
将軍野中学校 一年 黒木 颯花
「人と人のつながり」
秋田大学教育文化学部 二年 齊藤ゆきみ
「みんな誰かの大切な人だから」
秋田西中学校 二年 伊藤 百花
「ルール」を守ることの大切さ
秋田西中学校 二年 渋谷 音楽
「挨拶で築く明るい社会」
城南中学校 二年 仙葉 大貴
「みんなちがってみんないい」
城南中学校 三年 平野 幹生
「人を見る」ということ
桜中学校 二年 佐藤 柚太
「みんなの声」
城東中学校 三年 佐藤 真優
「人と心」
城東中学校 三年 菅原 陽生
「社会を明るくするためにできること」
城東中学校 三年 船木 志央
「地域を明るくする運動」
城東中学校 三年 小松 佑輔

【秋田地区保護司会作文コンテスト実行委員会】

- 顧問 金山 智紀
- 委員長 野呂 雅子 (中央支部)
- 委員 船木 勇一 (東支部)
- 委員 伊藤 巧一 (東支部)
- 委員 辻 邦弘 (中央支部)
- 委員 船山 邦一 (臨港支部)
- 委員 三浦 研二 (臨港支部)

【第73回作文コンテスト審査委員会】

- 委員長 秋田市立保戸野小学校 元校長 伊藤 一
- 委員 イスタンブル日本人学校 元校長 脇坂 昭視
- 委員 秋田市立桜小学校 元校長 小野崎 牧子

各支部活動のひとコマ

東支部



県央ブロック更生保護活動研究会 10月5日



ノースアジア大学法学部 学生による模擬裁判 10月21日

中央支部



新屋駅頭声かけ 9月26日



西中校門前 朝の挨拶運動 12月25日

臨港支部



映画と講演の集い 7月29日



自主研修「保護犬を通じた社会貢献の提案」 12月9日

広報「ひまわり」は共同募金の一部を活用して発行しております。

編集後記



燃料・食品・日用品、値上げばかりで、せつない昨今。

そんな中、旅行で訪れたある地方都市。そこでは、お店で某アプリを使いスマホ決済すると、なんとその場で十五%金額バックのキャンペーンが市内全域で行われていて。普段はクレジットカード派の私でも、食事買い物全部スマホを使ったのは言うまでもありません。

最初はラインだけのつもりだったのに、ついに財布までも。徐々にスマホに支配されていく自分が怖いな。

十年くらい前、首都圏で電車に乗った時ふと見ると、自分以外の乗客全員が無表情でスマホの画面をじっと見つめていた、あの不気味な光景の衝撃が忘れられません。

編集委員長 菊地 誠(中央支部)



編集スタッフ

- 会長 渡邊 清明(臨港)
- 事務局長 常盤 清誠(中央)
- 編集委員 永澤 淑彦(東)
- 木元 美香(東)
- 笹原 淳子(中央)
- 菊地 誠(中央)
- 伊藤 充子(臨港)
- 三浦 秋(臨港)